

桜台中学校に関するアンケート（保護者用）の結果

保護者の皆様、前期の桜台中学校に関するアンケートへのご協力ありがとうございました。肯定的回答（あてはまる・ややあてはまるの合計）の割合が高い5項目及び低い5項目は、下の表のとおりです。中でも、質問項目「学校からの情報がたよりやHPを通してよくわかる」については、昨年度前期比8ポイント上昇しております。学校は、生徒の活動の様子や学校の取り組みを、様々な形でお知らせしておりますが、保護者の方が学校から発行されるたよりやHPに関心を持ってくださっていることにとっても嬉しく思います。一方、質問項目「学校は子どもの悩みや相談に親身になって対応している。」、「学校は生徒の特性やニーズに応じた支援を行っている。」については、昨年度前期比約3ポイント下降しております。現状を的確に捉え、生徒に寄り添い、保護者の方ともよく連携を図りながら改善を図って参ります。また、その他にも学校の施設に関することや学習指導、生活指導に関すること等についていくつかご要望をいただいております。いただいたご要望については精査し、改善する必要があるもの・改善できるものについては、随時改善を図って参ります。今後とも、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

肯定的な回答の割合が高い質問項目(5つ)

社会的に間違った行為がないよう、家庭で指導している。	98.5%
学校からの情報がたよりやHPを通してよくわかる。	94.7%
基本的な習慣が身につけられるよう、家庭で指導している。	92.5%
通学路や地域の安全は確保されている。	90.2%
学校は生活面での行動や態度について適切に指導している。	90.1%

肯定的な回答の割合が低い質問項目(6つ)

学校は、職業・福祉体験等の体験活動を積極的に取り組んでいる。	55.1%
P T A 活動に積極的に参加している。	60.0%
学校は読書活動を熱心に行っている。	71.0%
学校の施設・設備は、安全できれいに整っている。	81.2%
学校は子どもの悩みや相談に親身になって対応している。	83.2%
学校は生徒の特性やニーズに応じた支援を行っている。	83.2%

全国学力・学習状況調査の結果

去る4月18日に、小学6年生と中学3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としています。調査内容は、教科に関する調査（国語・数学・英語の3教科）と、生活習慣や学習環境に関する調査の2本立てとなっています。3年生には、本日、結果個人票を返却しましたので、今後の学習にお役立てください。学校としても、結果を分析・検証した上で、教育活動の充実や学習状況の改善等に役立ててまいりたいと考えます。本校生徒の結果の概要については、以下のとおりです。

【学力状況調査の部】

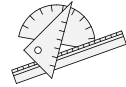
国語

国語全体の正答率は、ほとんどの項目で全国平均・県平均を上回っています。中でも、特に学習指導要領の領域のうち、「書くこと」の正答率が全国平均・県平均を大きく上回りました。これは、授業の中で本文を要約する・筆者の主張をまとめるという取り組みが成果につながっていると考えます。また、問題形式では、記述式の問題の正答率が全国や県平均に比べて高いという結果が出ています。必要な部分を抜き出し、文章で表現する力や自分の考えをまとめる力がついてきていると感じます。一方、学習指導要領の領域のうち、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、やや弱いという傾向が出ています。今後は、作文を書くことを通して、話し言葉と書き言葉の使い分けができるようにし、文法の授業では、言葉の特徴を捉える取り組みを行って参

ります。

数 学

数学全体の正答率は、すべての単元において、全国平均・県平均を上回りました。また、問題別集計結果では、数字の分類や計算に関する問題の正解率が高く、データから情報を読みとる問題の正解率は低かったです。問題形式別にみると、記述式が平均を大きく上回りました。授業での対話的な活動により、記述の問題に対しても苦手意識を持たずに解答できていると考えます。一方で、選択式問題は平均を下回りました。正しい解答を選択できるような思考判断が課題として挙げられます。今後、問題文を正しく理解し、必要な情報を読みとり、問われている解答に対して適切な処理ができる力を身につけさせたいと考えています。授業では、図やグラフの資料を用いる問題を多く取り上げ、問題に対して何を問われているのか、必要な情報が何なのかを、常に問題提起し、話し合い活動を通して、問題解決能力を養えるような場面設定をしていく授業を実践して参ります。



英 語

英語筆記問題の正答率は、すべての項目において全国平均・県平均を上回っています。特に「書くこと」の領域や、記述式の問題については高い力があるという結果が出ています。これは、日頃の授業において、ワークシートを用いて、英文の概要を捉える活動や、質問に記述式で回答する活動を積み重ねている効果が表れていると考えます。また、話すこと全体の正答率も全国平均を大きく上回りました。唯一、やりとりの中で、適切な質問を考えて相手に尋ねる問題については、全国平均をやや下回る結果となりました。今後は、ALT（外国人講師）をさらに活用して、英語によるやり取りを活発に行い、質問に応じることのみならず、自分から話を切り出したり、状況に応じた質問を考えられたいような言語活動を授業に組み込んで参ります。筆記問題も、話すことも、無回答率が低く、回答への意欲が高いことや、英語学習に対する興味関心が高いことが分かりました。引き続き、目的・場面・状況のある言語活動において、様々な個別の知識を活用させた言語活動を念頭に置き、学習指導を進めて参ります。

【学習状況調査の部】 ～全80質問項目のうち、代表的・特徴的なものを抜粋～

◆「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」等の肯定的な回答の合計が全国と比べて高い項目

◎「自分には、よいところがあると思いますか」

◎「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

◎「外国人の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」

◎「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」

◎「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」

◎「1，2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」

◎「英語の勉強は大切だと思いますか」

◆「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」等の肯定的な回答の合計が全国と比べて低い項目

△「朝食を毎日食べていますか」

△「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」

△「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

△「学校の部活動に参加していますか」

△「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

△「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」

△「国語の勉強は大切だと思いますか」「数学の勉強は大切だと思いますか」

